

令和5年2月長浜市教育委員会定例会 会議録

I. 開催事項

1. 開催日時

令和5年2月16日（木） 午前10時45分～午前11時39分

2. 開催場所

教育委員会室（長浜市八幡東町632番地 長浜市役所5階）

3. 出席者

教育長	織田 恭淳
委員	前田 康一（教育長職務代理者）
委員	宮本 麻里
委員	中村 亜紀
委員	松宮 誠也

4. 欠席者

委員	廣田 光前
----	-------

5. 出席事務局職員

次長	堤幹広
次長	東野裕賢
管理監（未来子ども局設置準備担当）	
兼幼児課長	中島尚子
教育総務課長	服部稔
教育改革推進室長	中北隆尚
教育指導課長	笥敏弘
すこやか教育推進課長	山岡万裕
教育センター所長	橋憲照
教育総務課長代理	前嶋美和
教育総務課主幹	川瀬奈津代

6. 傍聴者

なし

II. 会議次第

1. 開 会

2. 議 事

日程第1 会議録署名委員指名

日程第2 会議録の承認

日程第3 教育長の報告

日程第4 議案審議

議案第3号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について

日程第5 協議・報告事項

案件なし

日程第6 その他

3. 閉会

III. 議事の概要

1. 開会

教育長から開会宣言があった。

2. 会議録署名委員指名

前田委員、松宮委員

3. 会議録の承認

1月定例会

特に指摘事項はなく、1月定例会の会議録は承認された。

4. 教育長の報告

教育長：さきほどの「未来をになう長浜っ子育成プロジェクト実践発表会」では、若い教員たちの発表を見ていただきましたので、順番に各委員さんからの感想をお聞きしたいと思います。

中村委員：先ほどは、先生方のすばらしい授業や研修の様子を見せていただきました。発表会では、例えば社会の先生が冷蔵庫の中にある色々なものを見て、そこから物の産地や社会問題などの授業につなげていくのであるといった、本当に身近にあるものを使った生きた問題を子どもたちに提示されており、子どもたちが「取り組みやすい」と思えるような工夫をされていると思いました。また、ある中学校の先生は「ノートの持ち込みが可能な試験をする」と子どもたちに伝えておられ、そうすると子どもたちは一生懸命取ノートを取りますし、試験に向けてノートに色々なことを書き込む事もできるので、子どもたちが試験に臨む態度も変わると思います。そういった意味での取組も面白いと思って見せていただきました。本当にすばらしい先生方の努力を見せていただき、頭が下がる思いでした。

松宮委員：先生方は本当に、授業を考えて頑張っていたというのがよく分かりました。頂いた資料を見ていて、少し気になったのが、「子どもたちに身

につけさせたい事」と書かれているのですが、これを子どもたちが認識しているのか、そもそも子どもたちにその認識があるのかが気になりました。アンケート結果だけを見ると、あまり目に見える成果は分かりませんでした。この結果からすると、たとえば子どもたちが、「何のためにこの授業をやっているのか」ということを認識しないまま、ただ手段だけを与えられて授業を受けているようでは、結局は自分の中で目標が立てられず、授業を受けたことで「自分が成長したのかどうか」ということを感じられないということではないかと思いました。もしかすると、先生方がちゃんと子どもたちに伝えておられ、子どもたちも認識しているのかもしれませんが、そうだとすると、今度は手段がよくないのではないかと思います。あくまで1年間を通しての授業の目標や目的となりますが、それを子どもたちに認識させているということが大切だと思います。シーズンの授業もあると思いますし、たとえば1単元だけの授業であっても、やはりその時間内の目的というものを子どもたちが認識すればするほど、「何のためにこれをやっているのか」「どうすればこれができるようになるのか」といったことを、子ども自身もよく考えていくと思うので、そういった所をもっと子どもたちに伝えられるといいのではないかと思いました。

宮本委員：発表の中で、生徒さんたちが授業のリーダーになるというのがあり、新しい授業だと思いました。この動画を見せてもらい、学校訪問などで見る授業の様子と少し雰囲気が違うのではないかと思いました。希望者がリーダーをするということでしたので、そのリーダーに対して、先生が事前に何か指導などを行っているのかなど、どの発表についても授業をもっと聞きたいと思いました。先ほど、松宮委員からも「子どもたちが何のためにこれをしているのか」が分かれば良いという話があったのですが、これだけ色々な先生方が様々な授業をしてくださっているのを、保護者の方たちも今日の実践発表会のような形で知ることができればいいと思います。授業を身近なものにするためには、冷蔵庫の中を見るところといったことも意味があるということ、保護者も子どもたちと一緒にやっていけば、よく問題にもなっている「家庭教育」の部分にもつながっていくのではないかと思いました。先生たち自身についても、年々資料作りが上手になっておられ、タブレットを活用して資料を上手に視覚化されるなど、見やすくしてくださっているのが分かり、感動しました。

前田委員：松宮委員がおっしゃったのがルーブリック評価の狙いであり、まさにそこが、子どもたちの主体的な学びを促すためには大事なところですので、どう項目を設定するかという、まさに目標だと思います。本当はそれについて、子どもたちが自己評価をしていけるようになり、「自分はこの部分が足りないので、ここをこうしよう」となっていくことができれば、子どもたちに力もついてくると思います。「長浜スタイル」の中ではまだ踏み込んでいませんが、来年度の課題として、私は特にそういった仕組みの点について、セットにして進めていく事が必要だと思っています。

教育長：確かに、「授業の中でこそ非認知能力も高まっていく」というような話も、先日の学力向上プロジェクトチーム会議でも出ておりましたので、これを一つの機会として、次年度へのステップにしていきたいと思います。

5. 議案審議

「議案第3号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について」は、市議会で審議される前の情報であり、公にすることにより市民等の間に混乱を招くおそれがあることから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項の規定に基づき非公開としたい旨の発議が教育長よりあり、委員の全会一致で可決された。

議案第3号 議会の議決を経るべき教育関係議案に関する意見について（会議非公開）

教育長は事務局に説明を求め、教育総務課長から資料に基づき説明があった。

特に意見はなく、各委員とも異議なしということで原案どおり同意された。

6. 協議・報告事項

案件なし

8. 閉会

教育長から閉会宣言があった。